

急がれるひきこもり対策

自室や家からほとんど出ず、趣味の用事や近所の買い物程度しか外出しない状態が6カ月以上続く場合、社会的ひきこもりと定義されています。2022年度の国の調査では約146万人との推計です。年齢が上がり「80・50問題」と言って、80代の親が50代の子どもの面倒を見る現象が社会問題になり、国は取り組みを始めました。

伊勢崎では2年前に社会福祉課総合相談窓口が担当になりましたが、相談に来るのを待つ状態で23年度の相談は1月末までで11件だけ。具体的な対応策が急がれます。実態調査や専門家を招いての講演会などの啓発事業、中学卒業時に進路が決まらない生徒への支援を学校から地域へしっかり引き継ぐ対策などを求めました。

臨時職員の手当改善―予算に反映

正規職員との差はまだ大きいですが、市の会計年度任用職員（臨時職員）の給与改善が一歩進みました。市役所の非正規の事務職員に新たに勤勉手当が、学校の臨時職員にはこれまで出なかった期末・勤勉手当が予算化され、2億円近く予算計上されました。

万円の支給に。市民病院でも、319人いる会計年度任用職員に勤勉手当として新たに1億円の人件費が増額となりました。

特別会計では、手当が支給されなかった給食センターの調理員さんも期末・勤勉手当が出るようになり、モデルケースで夏冬合計43



質問する長谷田市議

下水道料15%、水道料7.2%値上げ

大企業は満額回答と言われていますが、物価上昇に多くの人の給料や年金引き上げが追い付いていません。そんな中で下水道料は15%の大幅な値上げです。一般家庭は税金で安くし、大量に下水を流す事業者には自分の負担をしてもらう制度でしたが、将来同一負担にするためと、単身世帯の平均使用で21・45%を値上げ、平均的な家庭でも16・08%の値上げなのに、50㎡以上の利用者はどんなに流しても726円だけしか上がらない改定です。物価高騰で苦しむ中で、水道料金も7・2%値上げとダブルパンチです。

議会エピソード 33

選手宿舎―8億円の建設計画が15億円に

議会審議はこれまで議員と執行側とのやり取りだけだったが、議会改革の一環で議員間討議が行えるようになった。

総務委員会でオートレース選手宿舎の建て替えについてY議員から「耐用年数が長いから全額現金で支払うのではなく借り入れをおこし、基金は売上増のために活用を」と執行への質疑があった。これに対し議員間討議で「いつ不調になるかわからないのだから払えるときに全額清算すべきと思うが、Y議員はどうお考えか」との意見が出され、議員間で活発な議論が行われた。

15億円を借入なしでポンと支払うために、これまで市財政に3億円入れてきた繰入金も新年度は1億円だけになった。老朽化した施設の建て替えは必要だが、施設整備計画では8億円と推計したものが資材、人件費等の高騰を理由に15億円に跳ね上がった。『2倍近くに増えたのはなぜ?』との市民の疑問に、理解できる説明が必要だ。共産党議員のいない総務委員会でも議論は活発だったが、この点の質疑はぬけ落ち、全員賛成で予算は可決された。

(K)